萬國略說

上

特別
ル2
3191
1

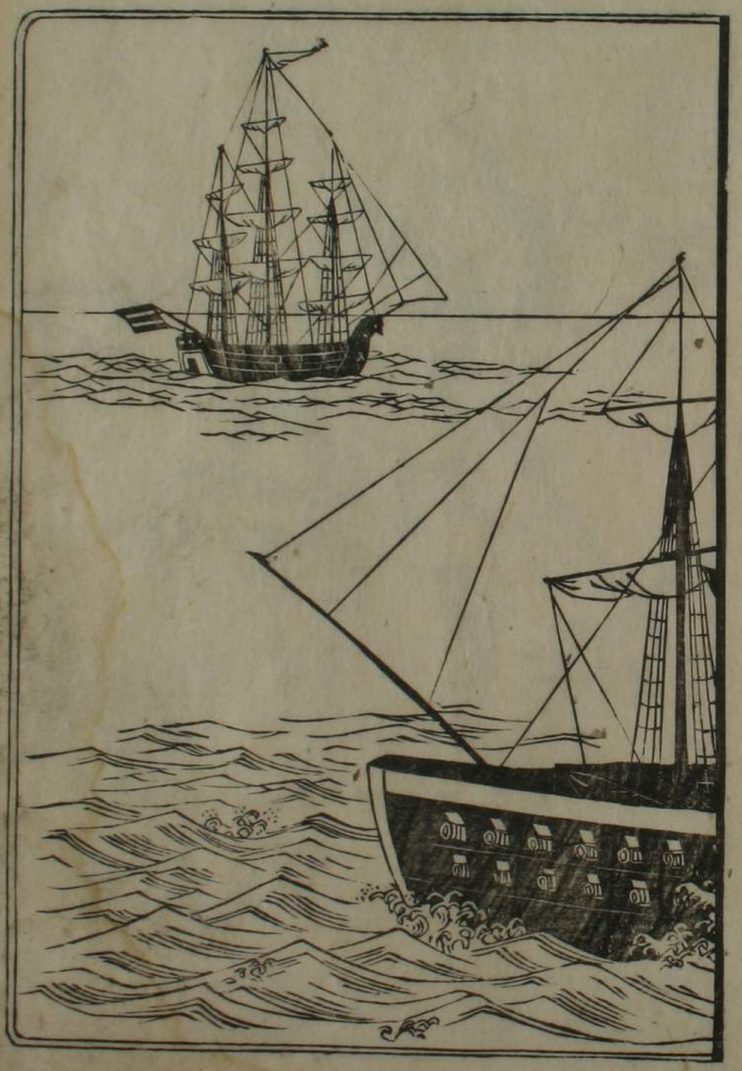
早稲田大学図書

序

余ガ摸製する地球第五の圖ハ西洋の人齎し来る所の圖にして。
精妙詳ふに堪へざるべし然れども諸國の地名等ハ彼國の文字にて
記し仮ふ通ぜるもの鮮し。茲に於て各名の傍に訳仮名を以て
人に伝へざる名のこと多し。即ち一名分海の法名。および小島或ひと港浦の名等ハ
漢文大国の名のこと記せり。全國狭小みな尽く略いて
其他形の参差を西刻の法に倣ひ凹凸を畧することなく。唯蒸
りのけしとなす。ただ大海第五の方位を知らむ。ゆるふに日晋陽
馬氏命とうけ天文鉞丹の地球と補ふ方小馬氏ふ請ひ再地
名を訂正して茲ふ加るのみ

春波楼漁夫述

門 ル 3191
號 1
昭和三年七月十五日 求



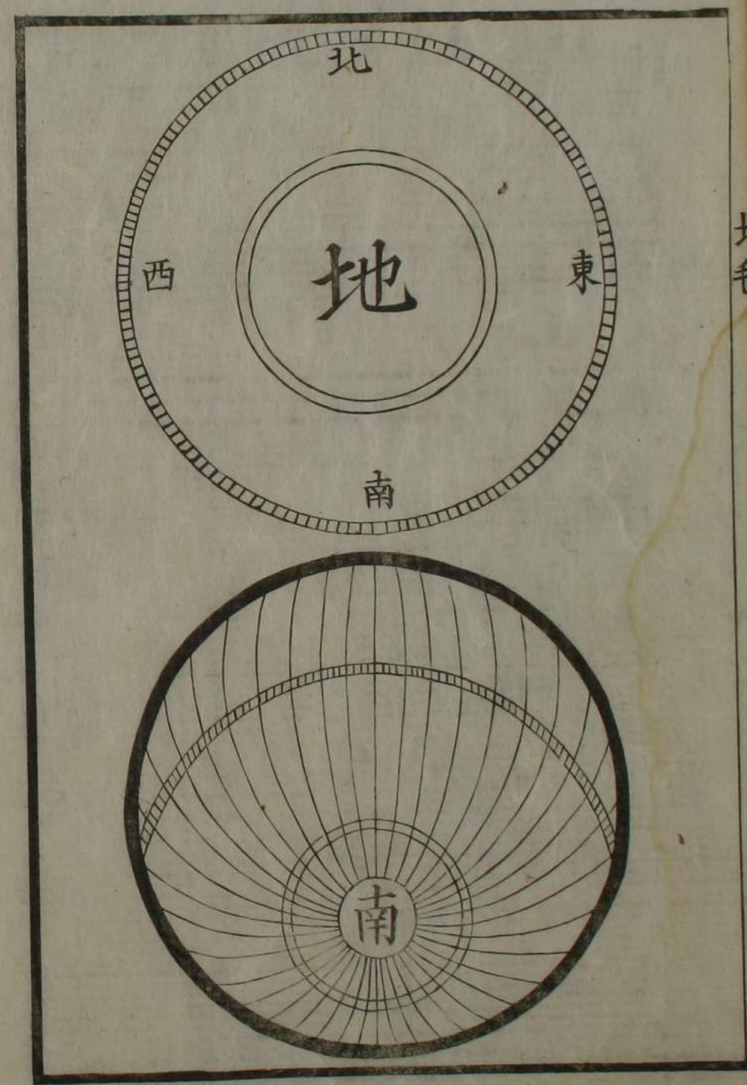
地球全圖畧説

東都　江漢司馬峻著

余繪事の餘暇和蘭舶一来るところの奇器畫圖の新と喜製す雷彼邦銅版の法と考索し已ふ地圖を彩製して人ふ示を迂附生法と次で茅舍の圖と製せんるゆと思ひ彼西刻の圖を以て是と換写し銅版ふ割を頃その圖なまろ従来我　国の人多い輿地總界のゆと知者すくゆ　蓋い人と此圖とを見て茅舍の大ゆるゆと云ゆんと欲す生精詳のれきい識者の校訂と俟りのみ

世の蒙生の徒ふ授んとの微志より方ふ此畧説を附
てその図を照らしるふ便ならしむるを左のごと
夫天は苞こうして際なきものゆえ方ふ以て測べき物な
ク仍て總星の纏うを以て象とすれば則一の大田とする地球
その元星地と纏て為れば地球の中ふ在て一ッの毬
なり扨その地中ふ海と陸とありてたとへば一ッの珠ふ画ぶ
如し但面皮ふ多くざる所ふ低ところと海河とを為き
所を山嶽とし平なる所を田圃とし且各異なり利用を
分て五大洲と名け所謂亜細亜。亜弗利加。欧羅巴。亜墨利加。
墨瓦蘭泥加。なり扨天の總星の纏う所を以て彼星より此星

ふ望りて天の一面を為ん時天の總廻とはなり是を三百六十余ふ
割合て此一を一度とし一度より天の三百六十度を地ふ引合く
地もまた三百六十ふ分て其一ッを地の一度と定む一度八日本里
数凡二十里許なり
然ふ今ぞ〳〵地は平面なるものふあらずして圓なるを
廻と三百六十ふ縦横ともふ割合て天の度と地の度の
数ふ従て差ふの大小を分て割つけその圓毬なる物を
平面ふして且半を分て二図とせ
義ふ地球と畧図して度数を表に
一度を二十里ふして地の周廻一萬八百里なり



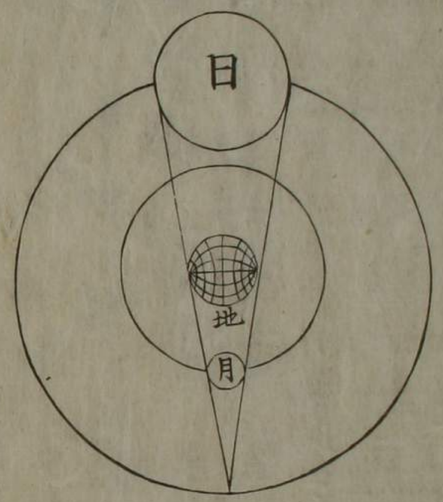
地球と半と
分て二図とも
五大洲の
界図

同

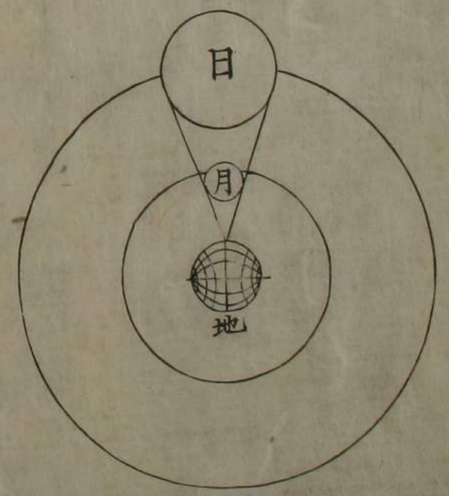
日北を周旋して南北極とりつて樞機(くるゝ)(ほそ)して(樞機)(ほそ)(ほそ)(ほそ

月そ一ツの水晶の玉のゝくふて光りなれるのゆえ
日のひかりをうけ映ド照してひかりをおす所い地ハ
ちかくしてめぐるとゝ雖ども亟ハ黄道とゆうた
一月ハ十二度ヲ黄道の南ハうつるゆえ或ハ六度
黄道の北ハうつるゆえ月と六度黄道の南ハうつる是と
抱輪とゝ日と同ドところをめぐれば有ハ形合
かさなり合るとき日蝕するゆえ日と月のあいだ
ハ地とへだゝ月地の光ハ塞らきて月の光
とうしまゝ月蝕するゆえ和ハあるところの図
とゝんてさとり知べし

月蝕



日蝕

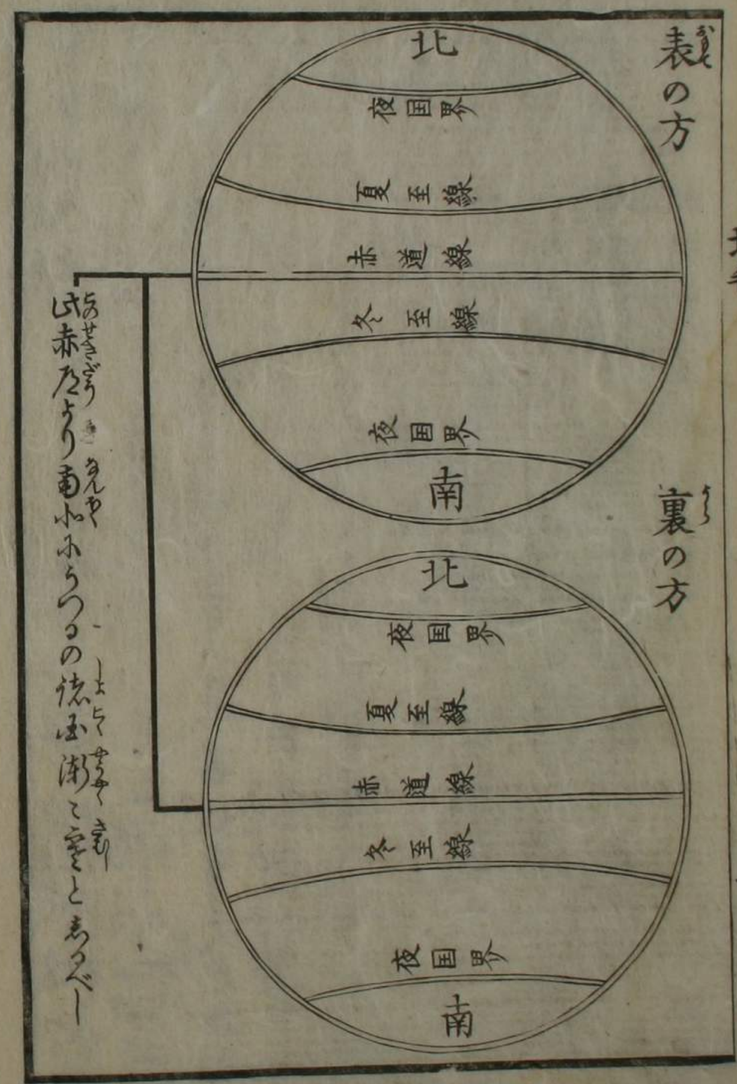


北極
夏至界
春秋界
冬至界
南極
日

北
日本
アジア
アフリカ
南

為ふ出る日本支那等ハ亜細亜の地ゆえ寒暖時ふ
よりて異なり別日本のごとき小極こ十六度上ゆえて
人見とこるとのへども南極ハ又こ十六度北平とゆり
こるゆゆ此図ハ日本支那の地と上ふゆえ見るゆり
○南極ふ極より天と半分ふ分てその正中と赤道と名
づけ此赤道の垂下する法ふハ春分秋分の頃ふハ日天
頂と物を垂ふハ日南ふうつり夏ふハふうつり北ふ
冬月ゆ人物多ハ裸く裸ふ上こ草衣をまとふのこ日本
の冬月ハ彼法ふていハ我国の夏月のあつ時ゆ当る冬の熱
ふ物産多し五穀一年ふ二こ度も耕し冬ふ菜

もちゆ食ゆ足らずエウロッパ諸州の人遠く此法ふへ航と
その物産と交易するとゆり余先年長崎ふ於て一時彼地ふ
ジャガタラ地方の人と云る別世ふ崑崙奴ゆり人ハ黒く
新ゆ日ふ焦ゆる色ふて黒ふハあらず葉人の奴僕とゆり
長崎ふ来る此ジャガタラ近ふも赤道垂下の所ゆり總じて此
方位ふある土とインデヤ海西とゆり
日本の如きも薩摩琉球の方ハ赤道へ近きゆる方ふ
暖ふて雪降ゆおゆ又奥州の方西新津港の地ハ小の
方へ傾て松前蝦夷ふ至ていハ積雪山とゆて夏月ゆ一
ふて寒暖とゆつゆかくのごー



赤道より南ハふらつるの法ハ涼しくあるべし

アメリカ大洲も此日本の裏ふわくうる法ハてきの
ごとの暑暖もおりてのわく赤道垂下い常ふ熱し
赤道南ハふりていい涼しく暑し此法ハエウロッパ
法州の人波て開し法ハ
日本ハ法のごきい赤道とこ十五六度
去の地ふして暑暖ハ付ふ考ひて
異すり支那の南系ハ日本の肥
州と同ド小系い奥州蝦夷ふ考し
かくのわくふしてエウロッパ法州の暑暖此
度の線と推て知るべし

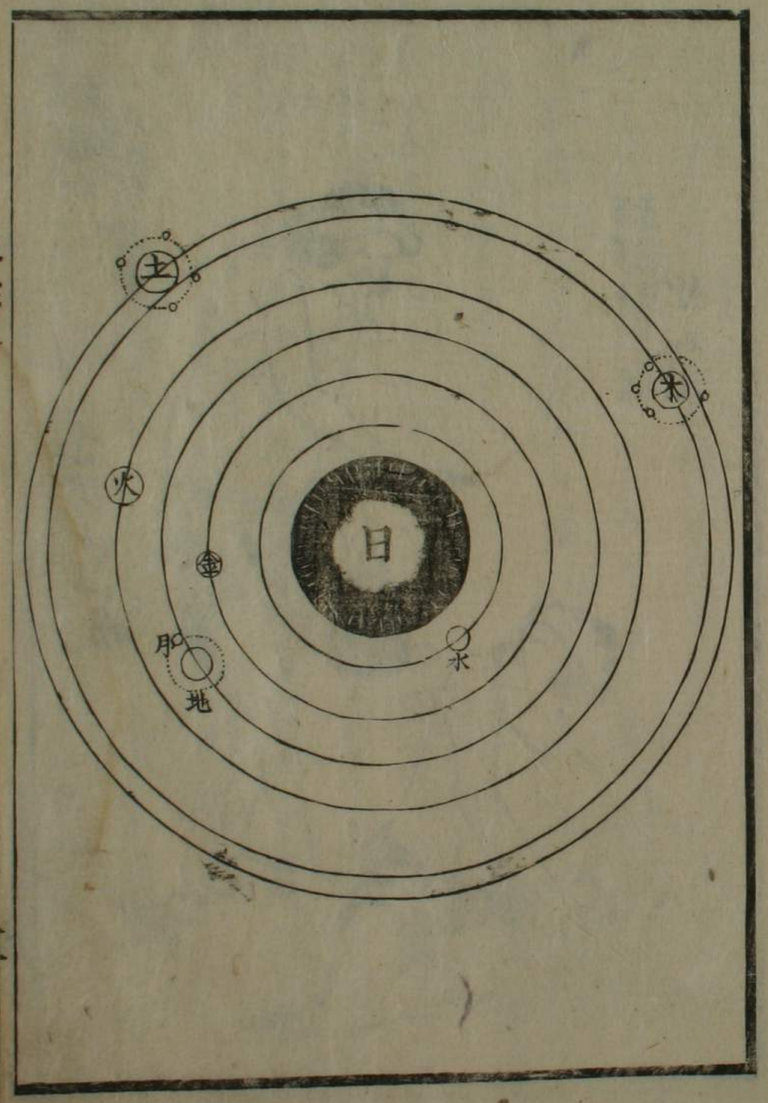
此界より北の方日海の及ざるの地ふ〻て秋
の冰海とゝ〻春のころよりよ天のゆく反
ふ〻りて書とゝまのときふ澄く日光
と絶ふ〻る後ども日上ふめぐ〻ぞ地ふつきて
周囲秋分のころい日暮ふ〻て日地下ふ入る
玉のごとい秋のよの別のゆゝ〻しき分ふ成るまぞ
秋とゝまのごとい玉をどろいエウロッパの信州の人
ひ〻きて絲撚とゝて産業とゝウニコールも
刈代海の産ゆり北極地下の地ふ〻てまさ面
極の方もとゝと同ド

○エウロツパ　強州モスコビヤ。ポログ子。アルマグ子。フランス。ヲランダ。イギリス。等の地は皇国多ハ交易すくなし

左ハ米穀を產せずナトリヤ。トルコ。の地のごときそ日本の三陵と同ドそのほの西い地中海へ出て小い太湖を東として甚兵利の地ゆて世界の宝吾ほふ多ありと雖とり、總ドてエウロツパの強州を第ふへきうて交易とりて第一のふ勢とすきゞまづ天文地理とぬうふきいめるゆと弘ふ勢とせり且ち海船色形の方あるれゞ量地の術りつとも勝ち彼ほの書ふゞ。スピイゲル。といふ書あり

セーしハ海ゆり　スピイゲルハ鏡といふる言ふしてするいち海鏡といふるゆ　ふて第ほへ紅と紫ゆと委しく記ー南ふ極の方低と海中の深減とえりつゆり方るゆと書ーあるハーゆる書ゆり愛ふ方ほふりふが紅く方極ハ南北の極撥ふーて動うざる方ふふの方の強州へ波ゆる時ハふ極の方低とゆりて地とえり里数とゆり推計とりて南ふと分ち天の度とりて地の度と定ゆり地の度数とさだめて而後第ほの方位と海陸の参差と地球ふりつけられゞ月下ふ是とゆるゆといふりぬ方るふ古来天地の説ハ地ハ天の西中

夷人天文を改める図



ふ有りて日月天とめぐり地もまた旋の徒ふて
をり理数と窮まりなきを来西洋の人の徒あり日を
正中ふ有りて地い天とめぐり月も一ッの世界ふ一て
此地を中心としてめぐり五星も又皆一ッの地なりとうの
徒あり是全象と器ふ制作ーてヲルレイと名づけうを図
うえいボイスといくる人の書中ふもあるーと載うり余が知る
ぢょすいまろなくらびぬ松系氏なる人此器と新製せんるを企此徒を紡奇の
るるれば窮理ふ心と刻る人ふあるずんば虚妄の徒と疑べー
たふ出さて図い日い天の正中ふ有りて地月及ひ星の旋る徒を
示す　日い此地ふ三百六十倍ずし大ひなるとい徒あり全図の要とを徒の家なるい茲ふのせぞ

熱國の人物を圖す

「コルマンド」の人物

茶道亜下の人皆如此

扨第五いその五この言葉各異なり方ふその五の云ふ
をぜざれば其五のみいまれざるなり然て第五の書中ふ
奇言精説あるべれども僅なるあさらず唯畫圖の記
とうて揣量するのと
茲ふ五大洲第五の方位と其五の風土と狀といへども
豈齊第分の一云と徒のみ先ふジョウガラヒイ」といふ云と
翻譯する龍樹侯素西圖説の選あり此ところ川池云第五
圖説と編集す且其端と聞して率本之
○歐羅巴大洲中○入ふ馬尼亜と「ドイツランド」といふもの方と
「アルベス山」より発ふ「翁加里亜」ふ接し「ドナウ」河ふ流る此大

河曲ことして太湖ふ流るゝ八百里（日本の小い里数にて紙）第那瑪尓加ふ
ゑて海ゆり都城と「ウエヲンとゝ「ドナウ」河ふ傍古へ「ロウマの
帝ときふ徙も此邦廣大英藻ふして大城あり城外ふ寺院
あり又ロ十余丈の塔あり「みゝ」アラビヤの石をとりて築（細亜中ふあり）
百余年ふ及ぶふ「都尓筒来て大ふ破るとゝいゝども「伊斯巴尼亜拂
郎西察「諳入利亜等十年の間ふ再奮のゆく「就英とゝ今
い帝勢衰てゝ邦縣と各独立多し此ふ天文窮理の学と
ほゝむ「欧羅巴拂州此ふ會ま
○莫斯可未亜い「スコウとゝいゝるゝふて列都城の名ふて
ふの總名と和蘭ゆてい「リユスとゝ「リユスの粉紙「シヤゆり

小韃の人「ヲ」の考と附て「ふ多人ふ不得「曾西亜是ゆり「図中ふ英
ふ「彩分亦ハ「亜細亜の大韃靼ふ連り小い冰海とかきる
ゆい「ラフランド及雪際亜南い「都尓筒ふ多る此ふ古い長民ふ
して理とうきま人ぞ巫「祝の「ゝと「崇ーグ「ピルテル帝ふて天
文窮理の学と施ー二世女帝の時より大ふ紀す今ふゆて
その政法と絶此ふ森林曠原ふて山ふー風古ふ川多く
米穀とせずゞ牛肉とゝつて食とゝを邦「モスコウい大河ふ傍て
帝城あり總郭廻十四里（日本の里数にて紙）石或い古とゝつて築洛ふ
五百寺院あり「入尓馬泥亜及「諳入利亜「和蘭ふのち隆ゝとゝ
○阿蘭陀此ふの總名と「子」エデルランドとゝ小い湾ふて「諳入

利亜と臨南ハ入尓馬尼亜より古ハ十七州より今ハ七州と
ホルランドヲイーレキドフリイスランドヲフールエイゼルグルウニンゲンゼーラ
ンドゲルデルランドより小ふして日本の九州ふ比べ船と巧ふ
て世界諸国ふ交易とをず友ふ富ふ都城をアム
ステルとい〳〵
○伊斯把泥亜ハヒスカー海ハ波尓杜瓦尓南ハキブラルの峰を
潮て亜弗利加の大洲モウダより東ハ地中海と臨むヨルペ島
ヒイピカ島ふ向ハ此ふ比十度ふあり高ー月長ーとい〳〵ども
南岸の法ふ隔て五新と生ハ金銀玄象ー友ふ船
と法邦ふ出ー民の法と祝物良智の者と先ごて教

を施ーその法を聞ゆと生〳〵勢むあとふよりて亜墨利加
及法洲ふ属ふ多ー亜弗利加大洲のうち巴巴里ヤの地ハ
多く属ふ伊斯把泥亜の都城をマトリヤトいふ廣大
ふ繁とたくさん
波尓杜瓦尓此ふ伊斯把泥亜の西ふあり都城と名づけて
里西波亜とい〳〵とも西南ハ亜太蒲海と
臨む亜弗利加大洲のうち應帝亜海及亜墨利加大
洲のうち銀河の色より東ふいり伯羅西兒の地ふ
交易の波郭と役ふ都勢とます
○拂郎西察此ふ都城をフリスとい〳〵廣大ふて城

郭の廻り四百九拾の里程あり「和蘭」に隣せり及び
ふして宮殿多し古地より出る所の産わき地に必人を他に傍
時計を外奇器を工むる「イギリス」ふつ「伊斯波泥亞」と「ペイ
レ子イセ山」とりつてつき東い「レイン」河ふつり「入尓馬泥亞」と
流を南い「羨」亦微及び「亞尓白西山」とりつて「意多里亞」ふ
隣を北い海と隔て「諸」入利亞ふ向る

○意多里亞地ふい「アルヘス山」とりつてふさ北南い地中海へ出
る地と「ロウマ」といふ又「ヘ子チヤ」あり「テリカ」と稱す地中海に属する
の「西齊亞」「可」尓西加及「サル」ニインを余小島多し穀及び
果子又奇衣を產せり